

（民泊班）

～（OJIKA no ほ。）～

メンバー： 門脇衣純 崎元愛琴 遠山彩香



1 研究動機

小値賀には、豊かな自然や人の温かさなど、たくさんの魅力がある。しかし、現在の小値賀町は人口減少や少子高齢化といった人手不足の課題を抱えている。私たちは、小値賀町が持つ貴重な価値を人口減少によってなくしたくない。そして、小値賀町がいつまでも元気ある島であってほしいと願っている。そのために、観光によって多くの人に小値賀の魅力伝え、観光客、さらには移住者を増やすことで人口増加を図りたいと考えた。そこで、私たちは民泊を活性化させるための具体策を提案する。



2 現状把握

現在小値賀町には、民泊、古民家、旅館民宿、野崎学塾村などの宿泊施設がある。その中でも民泊は、島民と食事や島暮らしを体験しながら観光を楽しむことができる。しかし、民泊の課題として、①高齢化や利益の節減による民家の減少 ②民家の受け入れ条件の偏り ③コロナ禍による規制などがある。また、修学旅行生の受け入れや夏休みやゴールデンウィーク中の受け入れ先としては収容人数が少ない。そのうえ、民家さんにアンケートをとると一度に多くの料理を作らなければならない、連続してお客さんが入ったとき、漁師ではない家庭は魚代が大きく、大変だという意見が多かった。さらに、古民家は、島民との交流が少ないデメリットがある。

3 仮説の設定

古民家と民泊を掛け合わせ、島民全員で観光プランを分担する新しい観光事業を考案する。これにより、各家庭における民泊事業の負担が軽減し、協力家庭の増加や民泊活性化に繋がると考えた。

4 本論

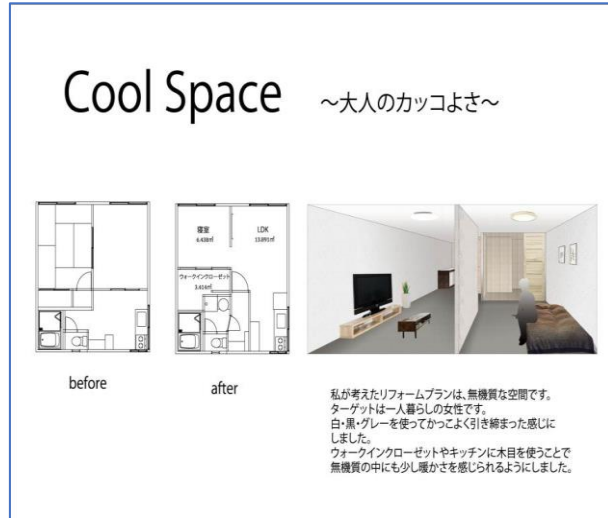
『OJIKA no ほ。』

（1）宿について

現在、小値賀町に100件以上ある空き家を改修して、6件ある古民家のようなプライベート宿泊施設を増設する。しかし、空き家の改修には多くの費用が掛かるため、以下の案を提案する。

- ① 空き家を工業高校の生徒や大学生、若手デザイナーの実習場所として提供する。

例えば、長崎工業高校インテリア科のみなさんにお話を伺ったところ、高校生でも予算やどのように建ててほしいのかという依頼に沿って設計できるくらいの技量があるとのことである。学生や若手デザイナーに実習場所として利用していただくことで、プロに頼むよりもコストを抑えることができる。



- ② 中高生のボランティア

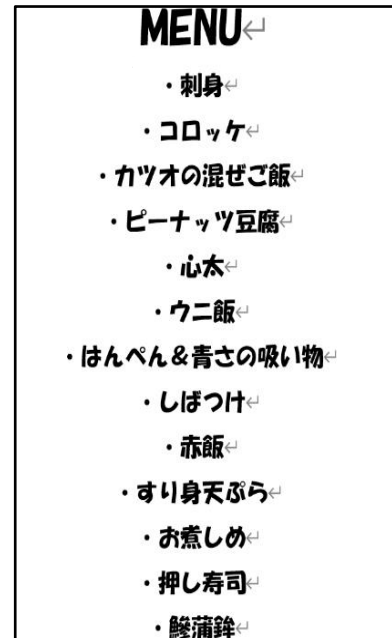
空き家を改修する前の荷物出しや掃除を中高生がボランティアとして行い、さらにコストを抑える。実際、私たちも空き家の改修を行ったが壁を壊したり、中のごみを出したり、楽しく活動することができた。ボランティア活動の期間として、夏休みや冬休みなどの長期休暇中に行う。また、活動時間は、二時間から三時間程度と考えている。

(2) 民泊サービスについて

民泊では、宿泊客が民家さんと料理を作り、食事を共にするが、この「OJIKA no ほ。」では宿に島民がいない。だからと言って、小値賀の郷土料理が食べられない、島民との交流がないというのも残念である。そのため、「Ojiiiber」と名付けた都会で使用されているUber eatsのような島民が単品で料理を提供できるサービスを生み出したいと考えている。

小値賀の郷土料理を中心としたメニューを提供したいと考えており、値段設定はヒラスの刺身一皿で500円や野菜のコロッケ5個で500円などである。島民が作った料理は高校生に宿泊施設まで配達してもらう。

また、漁業体験や農業体験などの島暮らし体験についても食事と同じように提供したいと考えており、値段設定は、農業体験1時間1500円、漁業体験の場合、堤防釣りは餌代とお礼代で2000円、船釣りは餌代とお礼代に加えて油代で2500円とそのサービスに見合った値段設定をしていきたい。



(3) サービス提供者の管理について

ここでは、サービス提供してくれる島民を「Comin's」と名付ける。古民家の「こ」、民泊の「みんな」、複数形の「s」、そして「入ってくる」「やってくる」という意味の「come in」を掛け合わせ、小値賀に来てくれたたくさんの人を家族のように町民全員で受け入れるという願いを込めた。

Comin's の管理は島民が誰でも登録できるカレンダーアプリを利用して管理したいと考える。島民には、次の月の中で協力できる日を、毎月31日の調査日までに、アプリに入力してもらおう。アプリを利用していない人には、毎月最終週に電話で次の月の都合を尋ねる。そうして、サービスの提供が可能な日を私たちが把握し、宿泊者の希望とすり合わせ、島民個人に提供を依頼する。お金の管理については、電子マネーの利用を中心にしていくことを考えている。協力していただいた方には、島内で使える電子マネーをお礼代としてお支払することで、島内での経済循環も見込めると考える。

(4) 資金面について

支出：初期費用 50万円

収入：宿泊代 2200円

食事・体験代の20%

町民が得る代金：食事・体験代の80%

(中高生へ)

Ojiiber の配達：3回でジュース一本など

空き家の改修：2回でジュース一本など

(5) 町に協力していただきたいこと

資金面での援助

・空き家の改修

→建設会社に依頼した際の建設費

◎観光プランの例

滞在期間は自分で設定する

<ペアプラン 例：短期滞在>

2泊3日 (12月17日(金)~19日(日)) 宿泊場所：空き家を改修した古民家

金曜

14時着 フェリー着 チェックイン→フリータイム

18時 夕食(Comin's)

土曜

7時半 おぢか散策

9時 農業体験

11時 Ojiiber

13時半 お料理体験→フリータイム

18時 Ojiiber

20時 天体観測→フリータイム

日曜

5時半 魚釣り体験→島根志体験

7時20分 高速船で帰る

<シングルプラン：例：長期滞在>

・5泊6日 (12月20日(月)~25日(土)) 宿泊場所：空き家を改修した古民家

・月・水・金 昼・夕 Comin's の食事を希望

・土 午前中 島体験を希望

・宿泊施設 月~木は一人(ワークション) 木~金は民泊

上記のように観光プランを自分で決めていく

観光プランの内容はペアプランを参考

5 まとめ

今回、観光産業の活性化をするために、島民全員に協力していただく観光サービス事業を考案した。この事業は、各家庭が得意分野のサービスを提供することで、コロナ禍での感染リスクを削減でき、且つ利用者と島民との交流を可能にするものである。また、時間のある時に得意なサービスだけを提供してもらうことができるので、民泊受け入れへの負担感が減り、民泊に協力してくれる島民の増加も期待できる。それによって、観光の課題を自分事として捉え行動する島民が増え、小値賀町観光の活性化と更なる観光客の増加と小値賀町の周知・発展に繋がっていきたいと考える。

6 参考文献

おぢか島旅 <https://ojikajima.jp/>

長崎工業高校 HP <http://www2.nagasaki-th.ed.jp/>

協力していただいた方々

小値賀町役場 総務課の方々

NPO 法人アイランドツーリズム協会の方々

民泊民家の方々

今田様

立石様

長谷川様